

いつも瑞々しい小泉祥一先生に感謝

白鷗大学教育学部教授

工藤哲夫

小泉祥一先生は、令和2年3月31日をもって、白鷗大学を定年退職されることとなった。先生は平成27年4月に本学に着任され、5年間本学の教育と研究、そして小学校教育コース、教育学部および大学の運営に尽力された。「教育課程論」、「教育方法論」、「教育基礎論」等々の多くの授業に加え、教育学部長、新設の教育改善委員会の委員長、教職支援センター準備委員長、教育学部将来構想委員長などを務められ、大学の管理運営にも貢献された。

先生は、滋賀県のご出身で、学校経営学の権威である高野桂一先生（当時、九州大学教授。退官後早稲田大学教授）のもとで学問を修め、大学院博士後期課程単位取得後、九州大学教育学部の助手に採用され、日本学術振興会奨励研究員、純心女子短期大学助教授、高知大学教育学部准教授（当時、助教授）、教授を歴任された後、東北大学教育学部・大学院教育学研究科に教授学習科学講座の教育実践論分野担当教授として赴任され、100名を超える学生（学部生69名、博士課程前期の院生19名、博士課程後期の学生10名、研究生等）に熱心な指導をされた。平成27年4月に白鷗大学教育学部発達科学科児童教育専攻小学校教育コースに教育課程論・教育方法論担当教授として着任された。この5年間で小泉ゼミに所属した学生は約50名で、教育学等の研究の指導をされた。

白鷗大学では、教育学部において、学部内でどの教員も希望・選択できる「ゼミナールの自由化」やゼミナールの担当教員の補充・整備、教育実習校訪問の合理化・適正化、白鷗大学にふさわしい日課表作りのための白鷗大学初の学生参加方式の教育改善委員会の新設など、大学や学部

運営における学生の要求や意見反映について尽力された。前述のように、教育学部長等の要職を務め、教育学部および大学の運営等にも大いに貢献されたが、学生の要求や意見反映のために、白鷗大学大行寺キャンパス食堂の100円朝食や昼食時に、ご自分の担当学生に関係なく、多くの学生と共に食事をし、学生の意見に耳を傾けた。定年の年においても若々しい気持ちを持ち、多くの学生と会食をされていた。また、ゼミナールの学生をはじめ、多くの学生にご自分の研究に関わるアルバイトをさせるなどして、教育学の研究方法を会得させ、学生を育てた。本学では教育学関係の大学院はなく直接授業で指導する大学院生はいないので、ご自分のゼミナール等の学生をアルバイトという形も使いながら、大いに鍛え、ゼミナール等の学生はそれに応えていた。

研究においては、教育課程経営や学力・学習評価の研究を中心に論文を発表され、近年では新教科「地域共生科」の開発研究にも取り組まれ、学校現場や教育行政の現場を基礎に研究を進めてこられた。学会活動においては、日本教育方法学会、日本カリキュラム学会、日本教育経営学会、公教育計画学会、野外文化教育学会、日本生徒指導学会などの理事、常任理事をはじめ、野外文化教育学会会長、教育実践・経営学会会長、日本生徒指導学会副会長、九州教育経営学会副会長等を歴任され、野外文化教育学会の2度の大会実行委員長、日本カリキュラム学会の2回の大会開催（実行委員長と事務局長）をはじめ、日本教育経営学会、公教育計画学会の各大会実行委員長、さらに日本教育方法学会の研究集会開催世話人を3度務められるなど、また、日本カリキュラム学会、野外文化教育学会、日本生徒指導学会、公教育計画学会においては学会結成時から関わり、学会および研究の発展に貢献された。教育実践・経営学会の定例研究会については、白鷗大学勤務の5年間に6回も開催されている。

さらに、9年前に発生した東日本大震災直後の4月には、「ことばの移動教室」というボランティアスクールを詩人と院生・学生により立ち上げ、教育実践による心のケア、心の復興への取り組みをいち早く進められ

てきたが、平成29年3月には熊本地震復興支援として、白鷗大学の助成を得て、熊本において「火の国結び結びコンサート」を主催し、白鷗大学教育学部学生と共にボランティア活動も展開された。

また、文部科学省の教育研究開発企画評価会議協力者・委員、文部科学省指定研究開発学校七北田小学校運営指導委員会の委員長、高知県生涯学習アドバイザー、宮城県の学校評価システム検討委員会、学力向上推進協議会、教科書選定審議会等の各委員長や仙台市の教育評価検討委員会の副委員長、生徒指導問題等懇談会の委員長、宮城県いじめ防止対策調査委員会の臨時委員、日本私立大学団体連合会高等教育改革委員会の専門委員等も歴任され、教育のさまざまな分野において社会貢献をされてきた。

心を新鮮に保ち、学生の意欲や観点を大切にし、改革・改善の視点で研究も大学運営にも当たるという小泉先生の姿勢に常に感銘を受けてまいりました。

末筆ではありますが、小泉祥一先生、これからも、ますますお若く、ご壮健でお過ごしください。先生のご多幸をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

